

平成30年11月14日

各位

会社名 アライドアーキテクト株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 中村 壮秀  
 (コード番号：6081 東証マザーズ)  
 問合せ先 取締役副社長 C F O 豊増 貴久  
 (TEL 03-6408-2791)

**関係会社株式評価損（個別）及び持分法による投資損失（連結）の計上  
並びに業績予想の修正に関するお知らせ**

当社は、平成30年12月期第3四半期におきまして、下記のとおり損失を計上することとなりましたので、お知らせいたします。また、当該損失の計上及び最近の業績動向等を踏まえ、平成30年5月15日に公表した平成30年12月期の業績予想を、下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 関係会社株式評価損について（個別決算）

持分法適用関連会社である株式会社 FLASHPARK（以下「FLASHPARK 社」）は、2018年8月に単月黒字化を達成し、その後も順調に推移しておりますが、当社出資時の事業計画を下回ったこと等を勘案し、当社は平成30年12月期第3四半期において、金融商品に関する会計基準に基づき FLASHPARK 社の株式について減損処理を行い、関係会社株式評価損 255 百万円を特別損失に計上いたしました。

なお、関係会社株式評価損は、連結財務諸表上では一旦消去され、連結財務諸表へは下記2. のとおり持分法による投資損失（営業外費用）として計上されます。

2. 持分法による投資損失について（連結）

上記1. に伴い、連結決算において同社にかかるのれん相当額の一時償却等を 158 百万円計上し、持分法による投資損失に含めて営業外費用として計上いたします。

3. 平成30年12月期通期業績予想数値の修正（平成30年1月1日～平成30年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 4,150	百万円 328	百万円 308	百万円 238	円 銭 17.53
今回修正予想（B）	4,047	0	△223	△331	△23.68
増減額（B－A）	△102	△328	△532	△569	—
増減率（％）	△2.5	△99.9	—	—	—
（参考）前期実績 （平成29年12月期）	5,606	△57	△150	△1	△0.12

4. 修正理由

売上高及び営業利益につきましては、連結子会社の Creadits Pte. Ltd.（以下「CREADITS 社」）において、今期実施したビジネスモデルの変更（※）により新しいモデルは順調に伸長しているものの、従来モデルの解約に伴う損失を今期中に補うには至らなかったため、業績予想を修正いたしました。

※：CREADITS 社におけるビジネスモデルの変更について

これまで、CREADITS 社においては、より効果の高い広告クリエイティブの提供のためにサービス提供を行ってきましたが、事業活動を行っていく中で、特定のプラットフォームへの依存が高いことや想定外の解約等が発生するなど、ビジネスモデルの改善点が顕在化したため、より拡張性の高いモデルとするために、主に以下の変更を実施いたしました。

#### 主な変更点

	従来モデル	従来モデルの課題	新しいモデル
顧客企業への課金方法	広告出稿量に応じた成果報酬	広告予算の大きい顧客企業の解約が発生	月額固定金額に変更
プラットフォームリスク	プラットフォームの API を介したモデル	特定のプラットフォームの API や規約の変更の影響を受けやすい状況	プラットフォームの API を介さないモデルに変更
対応可能メディア	API を介することができる特定のメディアに限定	顧客企業が当サービスを活用して出稿できるメディアに制約が発生	すべてのメディアに対応した広告クリエイティブが提供可能
開発工数	API や規約変更への継続的な対応が必要	CREADITS 社における開発工数が継続的に発生	API や規約変更への対応工数が減少

なお、当該ビジネスモデルの変更に伴い、2018年7月よりサービス名称を「ReFUEL4@」から「CREADITS@」に変更し、商号も「ReFUEL4 Pte. LTD.」から「Creadits Pte. Ltd.」に変更しております。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記 CREADITS 社における売上高及び営業利益の減少要因に加え、「2. 持分法による投資損失について（連結）」に記載のとおり、FLASHPARK 社株式の評価損を計上したことにより、前回予想値を下回る見通しとなったため、業績予想を修正いたしました。

当社グループといたしましては、中長期的な成長を目的に、安定的に成長を続ける国内事業の利益を、ポテンシャルの高い海外事業等へ投資することを実施しております。当期におきましては、今期実施した CREADITS 社における投資を今期中に回収できなかったものの、市場のニーズに合わせたビジネスモデルの改善によって、より拡張性の高いモデルを構築することができたと判断しており、来期以降での収益貢献を見込んでおります。

当第4四半期連結会計期間以降につきましても、企業価値の向上を目指し、国内事業の更なる成長と CREADITS 社の早期黒字化に向けて、当社グループ一丸となって尽力してまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(注) 上記の予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予測数値と異なる場合があります。

以上